

第 28 回 小豆島町総合教育会議

【日時・場所】

- 開催日時 令和 6 年 2 月 9 日（金） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 18 分
- 開催場所 役場本館 3 階 大会議室
- 出席者 大江町長、坂東教育長、真砂委員、大石委員、照下委員、中川委員
- 同席者 **【町職員】**
谷本副町長、山口総務課長、古郷こども教育課長、出水こども教育課主幹、
小野こども教育課課長補佐
【教育関係者】
大山小豆島中学校校長、平野池田小学校校長、伊丹安田小学校校長、大山苗
羽小学校校長、中本こどもセンターセンター長、入倉星城・安田・苗羽幼稚
園園長、三好旭・福田幼稚園園長、進藤池田保育所所長、山口内海保育所所
長、慈氏せいけんじこども園園長

- 傍聴者 13 名
- 事務局 3 名

【内 容】

〔山口課長〕

ご案内の時刻より少し早いですが、ただいまから小豆島町総合教育会議を開催します。議事までの進行を務めます、参事兼総務課長の山口です。よろしくお願ひします。

総合教育会議については、本日が 28 回目の開催となります。会議は構成員であります町長、教育長、教育委員の 6 名で行うこととしております。

それでは、小豆島町総合教育会議規則第 4 条第 1 項の規定により、総合教育会議は町長が招集し、議長となりますことから、この後の議事進行については、大江町長にお願いをいたします。

〔大江町長〕

本日は、大変お忙しい中、総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。一昨年 12 月以降、県と用地交渉を重ねてまいりました旧小豆島高校跡地につきましては、ようやく本年 1 月に用地の活用に係る基本協定を締結することができました。

また、11 月から実施しております基本計画策定業務につきましても、まだ報告できる段階に至っていませんが、配置図（案）や平面図（案）の作成、概算事業費の算出などを進めているところでございます。

さて、本日は、11 月に開催した総合教育会議において、委員の皆さんの一番の懸念となったプールのことや中学校を改修して小学校として使用することについて、再度検討協

議するとしておりましたことから、本日の会を開催させていただきました。

これまでも申し上げておりますが、児童数の減少と施設の老朽化が進んでおりますことから、1日でも早い小学校の統合をしなければならないと考えております。本日の会で中学校移転か、小学校新築かを決定したいと思っておりますので、委員の皆さまには、忌憚のない意見をお願いするとともに、意見の集約について、ご協力を賜りますようお願いいたします。

それでは、座って議事を進めさせていただきます。

早速ですが、事業費の比較や中学校の小学校への改修等について事務局から説明をお願いします。

【小野補佐】

事務局から資料の説明をさせていただきます。

こども教育課の課長補佐の小野でございます。よろしくお願いいたします。

まず資料の確認をさせていただきます。次第がありまして、その他に2部あります。内海地区統合小学校整備事業と書いてあるものと、あともう1つは、改修内容について、ここではトイレとか手洗いとかの画像が入っております資料で説明させていただきます。それでは座って説明いたします。

まず1ページをめくっていただいて、内海地区統合小学校整備事業、総合教育会議資料と書いてある資料を、1ページおめくりください。整備案の決定についてと書かせていただいております。ここに書いてありますとおり、整備方針としましては、①統合小学校新築案と②の中学校押し出し案の2案の中で検討を進めております。

今回の資料については、現在策定中の学校整備基本計画の中で、現時点で中学校の改修工事内容を最低限のものではありますが洗い出しております。その事業費について詳細に見積もりができておりますのでそれをご紹介させていただいて、そのコストを比較しております。その比較するにあたって前提条件といたしまして、ここに1から7まで記載しております。

校舎の新築費については、まだ木造ですとか鉄筋コンクリート等の工法が決定しているわけではありませんので、直近の小豆島であった学校の建築となれば県立みんなの支援学校の実績がありますのでホームページ等々で調べられる範囲で平米単価を出し、これを当てはめて数字を出しております。これは令和4年度の実績になりますので、非常に近い、精度の高いものになるのではないかなと思っております。

次に2番の中学校に整備する部活動施設は現在設置している分、すべてを同一敷地に整備することを条件としております。移転を機に集約してこの施設はいらないだろうとか、そういったものは前提にはしておりません。テニスコートならテニスコートを同一敷地に入れると、そういうふうになっております。

それと3番目です。先ほど町長からもありましたが、現在の小豆島中学校のグラウンド敷地内にプールを整備してはどうかと、それについて検討しております。ただその際、設計事務所から案が出されましたが、地盤がやはり少し弱いと、埋め立て地でありまして、液状化の危険性があると。それについては、ほぼ間違いないということなので、旧小豆島高校跡地にプールを整備するのであれば、杭はいらないですけれども、今の中学校のグラウンドにプールを建てるのであれば、必ず地盤強化のための杭工事が必要であると。その

ためちょっと割高になっております。

次に4番です。費用の比較にあたって、例えば旧小豆島高校跡地に体育館がございます。この体育館の改修費用が相当かかるかなと思っております。新しいと言っても、おそらく平成元年か2年かだと思っておりますので、もう30年ぐらい経っておりますので、大掛かりな改修が必要かなと思うんですが、これについては小学校、中学校どちらとも必要になってくる経費ですので、こういった共通なものについては、今回考慮しておりません。

あと5、6、7とそれぞれ条件をつけて、比較しておりますので、その前提で次のページを説明させていただきます。

ページをめくって3ページをお願いいたします。整備事業費の比較をしております。令和9年4月統合小学校開校までの整備事業費を比較したものでございます。

まず左側、小学校新築案でございます。これについては、まず校舎の整備が延床面積5000㎡の校舎を建てた場合、電気設備・機械設備も込みでございます。これをみんなの支援学校の平米単価で計算しましたら、建設費が26億9500万円。それに対して、国庫の補助金が一定の建築単価をかけて計算するものでございますが、これが6億9100万円を見積もっております。差し引きの一般財源といたしまして、20億400万円でございます。

次が25メートルプールの建設費です。これは今の基本計画業務で積算したものでございます。これが1億7800万円。これに対しても国庫補助金が3500万円を見積もっております。差し引きが一般財源ベースで、1億4300万円でございます。

それと、小学校の新築になりますと遊具が必要になってまいります。これは後でも申し上げますが、鉄棒ですとか、ブランコ、すべり台、ジャングルジム等の必要最低限のものでございます。これの建設費が1300万円。遊具については補助金は利用できないことになっておりますので、すべて一般財源対応となります。

合計が建設費28億8600万円。補助金が7億2600万円。差し引きの一般財源が21億6000万円でございます。

続いて右側、中学校の押し出し案でございます。中学校の校舎の延床面積が5400㎡としておりますが、これは学校新築する場合に学級数ですとかそういったもので、これだけの面積以上整備しないといけないというのが定められております。それをクリアする面積になると、中学校の方が少し増えてまいります。想定しているのが5400㎡でございます。それに平米単価を掛けましたら、29億1100万円です。その下、補助金が6億9100万円でございます。

これについては小学校と同じ額になっていますが、どういったことかといいますと、この中学校の改修は、小学校を統合するため、現在の小豆島中学校に集約すると。その結果押し出されるということで、補助金は、その小学校分の基準面積に掛けたもので計算されてしまいます。よって小学校の新築の面積の補助金額と同じ6億9100万円になっております。差し引き一般財源が22億2000万でございます。

次に中学校の統合改修工事費でございます。先ほど申しました25メートルプール、これをグラウンドに設置する場合、杭工事を含めまして建設費が2億5400万でございます。杭の工事分が7600万円ほど上乗せになっております。

次に、校舎の改修費用でございます。これが1億1400万円でございます。これを合計いたしまして改修工事が3億6800万円。補助金が事業費の上限が2億の、その2分の1

ということで、補助金の上限1億円がもらえるのではないかなと思っております。差し引きいたしまして、一般財源ベースで2億6800万円でございます。

次に、部活動施設です。武道場、テニスコート他といたしております。実際には、この他に、部室それと野球場の防球ネット、夜間照明を積み上げたものでございます。これが、建設費が1億7000万円。補助金が2600万円と見積もっております。差し引き一般財源で1億4400万円。合計の建設費が34億4900万円。補助金が8億1700万円。差し引きいたしまして26億3200万円が一般財源となっております。差額ということで書いておりますが、建設費が5億6300万。これだけが統合小学校開校までに、中学校押出し案の方が高くなってくるのかなと思っております。

次に、4ページ目をお開きください。中学校の統合改修工事の概要について、列記しております。もう一方の資料、これも合わせてご覧になっていただけたらと思っております。もう一方の資料には画像がついており、その数値的な基準ですとか、細かいところの資料になっておりますので、参考程度に見ていただけたらと思います。

まず改修内容といたしまして、一番上からランドセル用のロッカーの新設、これ現在も棚はあるんですが、ランドセルが入らないサイズです。これを各教室すべてに設置する必要があります。これが参考工事費で1293万円。

次に教壇の新設です。今のは中学生用ですので黒板の位置が高く、黒板が下げれたらいんですが、現在の教室の腰壁があったりですとか、ちょっと難しい部分がございますので下に教壇をつけて、高さを調節しようということです。これが403万2000円。

次に手洗いの取替です。これは、やはり手洗いの高さが若干低学年には高いということで、今の中学校の1階を低学年にするのであれば、1階の廊下側にあります3台と、ベランダ側にある4台、これを変える必要があります。これが147万6000円でございます。

それと次、室名等サイン工事、これは何年生教室とかそういうのがすべて変わりますので、これすべて改修になります。

次に階段の手すり設置です。これはすべての階段ということでございますが、中学校の階段ですので小学校に比べたら、いわゆる蹴上げの部分が高くなっております。これも建築基準法で何センチより低くないといけないというのがございます。18センチより低くないといけません、今16センチ少々です。これであれば、階段を改修しなくても手すりを左右両方に設置すれば建築基準法をクリアできるということになっております。ですので、今、片側しか手すりがついておりませんので、すべての階段に両側手すりを設置する工事が必要になって参ります。

次が特別支援教室の増設です。これは大きな事業費になっているんですが、やはり特別支援の教室が足りません。想定では6学級は今の段階で必要でございます。その6学級を確保するために、技術室ですとか被服室を改修して利用しようということでございます。これが804万3000円かかるのではないかなと見積もっております。

それと視聴覚室の新設、これは生徒会室が小学校では不要であろうということで、改修すると、これも211万2000円かかると見積もっております。

次にトイレの改修です。トイレの改修も必要になってまいります。これも低学年の児童への対応です。1階のトイレの手洗いが少し高いのと、大便器の改修、小便器は背の小さいお子さんでも対応できるかなと思うんですが、大便器が少し高い、座ったときに足が浮くという状態ですので、低くしようということでございます。

そして次に、理科室と家庭科室の改修、大きな机があるんですがこれも、やはり高いと。高さを下げなければ、授業がしんどいのではないかなということでございます。現在の高さが80センチあります。これを67センチ、13センチほど下げると、13センチというのは相当高さがありますので、これは下げなければいけない。事業費が大きくなっております。1633万8000円でございます。

次に体育館の改修です。これについては床のラインを変えたりですとかバスケットボールを下げたりとか、そういった工事になっております。やはり小学生と中学生で規格の違うもの、これをそろえるということでございます。

先ほど申しました、遊具の設置です。登り棒や滑り台等々、一般的なもので、これだけは必要だろうということで、1259万5000円見積もっております。

ここに掲げている改修項目はあくまで必要最低限のものと考えております。今現在小学校施設には、多様な学びを実現するために、いろんな施設を設置するように文部科学省も進めているところでございます。例えば、図書室1つをとっても、様々なメディアの視聴に対応できるようなメディアセンターとしての整備であったりとか、あとは普通の遊具だけじゃなくて、雨降りのときでも、どこでも体力づくりができるような遊具ですとか、また現場の先生方にいろいろ意見を伺って整備をしていったら、もう少し事業費がかかっていくことになるのではないかなと思っております。

そうしましたら次の5ページをお開きください。今度は将来の小中学校施設集約後の経費の比較をしております。これは10年20年後、もしかしたらそれ以上先の話ではございますが将来的に施設を集約した場合のときの経費を比較しております。

まず左側から、先に小豆島高校跡地に小学校を新築してから、中学校を集約する場合の経費でございます。先行整備といたしまして、小学校の整備費用は先ほど申し上げたとおりでございます。28億8600万円で、これから中学校の校舎及び部活動施設を集約した場合には、建設費がさらに30億8100万円。ここで補助金が2600万円とすごく少なくなっております。

これはなぜかと申しましたら、後から中学校集約するにあたって、補助金の該当するメニューがございません。仮に耐用年数を超えて今の中学校の校舎がボロボロになったと、危険な状態であると、そういう原因による集約でない限りは、利用できる補助金はございません。ですので、これだけ補助金が少ないということでございます。一般財源ベースでいけば、30億5500万円という大きな数字になっております。合計が建設費59億6700万円、補助金は7億5200万円。差し引きいたしまして一般財源ベースでは52億1500万円かかるのではないかなと思っております。

次に右側、中学校を押し出してからの小学校集約の場合です。先行整備の数字につきましても先ほど申し上げましたとおり、34億4900万円です。今度、小学校集約しますのでこの時点で、小学校の校舎とプールを建てるようになります。これも数字が28億8600万円で同じでございます。ただしこれについては、この時点で池田小学校を集約し、統合するということであれば補助金が利用できます。これが7億2600万円でございます。差し引きいたしまして、一般財源ベースでは21億6000万円。合計の建設費は63億3500万円、補助金が15億4300万円、差し引きの一般財源で47億9200万円でございます。

それで比較をいたしますと、当初の建設費自体は、中学校を押し出してからの小学校集約の方が3億6800万円と高いんですが、補助金があるように使えるようになっております。で

すので、差し引きいたしましたら、4億2300万円ほど中学校押し案の方が有利なのかなということでございます。

次、6ページ目をお願いいたします。今度は統合小学校の整備スケジュールでございます。これについても、それぞれの案で差がはっきり出ておりますので紹介させていただきます。基本計画を今策定しておりますが、その中でこういった工程になるということで、設計事務所の方から報告が上がってきております。

まず6ページ目は、小学校の新築案でございます。ちょっと見づらくなっているんですが、上の方の矢印、各欄の上の方の矢印が、鉄筋コンクリート、RC造の場合のスケジュールです。

その下の矢印が木造の場合です。2通り検討しております。これを見ていただいたら、それぞれ建築設計業務その他業務、建築設計業務学校本体工事という欄であります。その上下ともRC木造ともに大きな差はございません。小学校新築案の場合で差があるとしたら、少し基本設計の設計期間が長くなる、2ヶ月ほど長くなるというぐらいでございます。あとはほとんど同じスケジュールでいけると。工事期間についても、16か月、完全週休2日制を適用したとして、完全に土日休みを当てはめておりますので、かなり余裕のある工程になっております。問題なく令和9年の4月に開校はできるという見通しでございます。

次の7ページをお開きください。今度は中学校押し案でございます。ちょっと複雑になっております。まず、真ん中2段目の学校工事（改修含む）というところでございますが、これの一番右側、中学校の改修、プール工事、これが追加で入ってきております。この部分がかかなり複雑になっております。その工事のための設計業務もございまして、矢印がかかなり入り乱れとるような状況でございます。

何が一番大きく違うかといいましたら、一番下ですね。中学校の備品の搬入ですとか引っ越し作業が、すごく集中してくると。小学校についてもそうです。ここでちょっと抜けてしまっておるんですが、中学校の備品搬入、引っ越しだけしか載ってないんですが、ここにも、小学校の備品搬入移転についても入って参ります。移転作業が同時に起こってしまう可能性もあるということでございます。ここを余裕を持って作業しようと思えば、どんどん前倒しになって、もう令和6年度に入ったら、すぐにでも設計業務に入らないと、もしかしたら目標とする開校に間に合わせるのがきついんじゃないかなと、非常にタイトなスケジュールになるというふうに計画業務の中で報告を受けております。

次のページをお願いいたします。最後のページです。今回の経費を含めた工事スケジュールを含めたメリット、デメリットをまとめております。基本的には前回の総合教育会議で示しておりますが、この黄色で色を塗った部分、これが今回新たにわかった部分ですので説明させていただきます。

まず、中学校押し案のメリットでございます。これやはり施設集約完了までの全体整備費が安価ということで、すべての施設が集約できましたら、4億円あまりの経費の削減効果があるのではないかなと思っております。それと、追加ではございますが、中学校押し案であったら、現在の施設環境に比べて中学校の生徒の方々の問題点とか、そういったものも解消できますし、小学校の子供たちの環境も改善されると同時に、お互いの学習環境が改善できるということ、部活動が内部で完結できるとか、そういうことに加えて、考えられるんじゃないかなと思っております。

逆にデメリットといたしましては、令和9年4月までの統合までの建設費用でしたら、やはり5億6300万円割高になってくると。一時的な費用についてはかなり多くなって参ります。それと、当然ながら中学校現場の負担が発生して、先ほど申しました開校までの工程が過密になってしまうということでございます。

次に、統合小学校の新築案でございます。これについては、余裕を持った工程が組めると。その分、現場の先生方であったりとか、かなり煮詰めた協議ができて、保護者ですとか、そういった方々にとっても、十分余裕を持って統合準備ができるんじゃないかなと思っております。

あと、これも書いてはいないんですけども、小豆島高校跡地に小学校が来ましたら、内海の学童保育とのアクセスが便利になるんじゃないかなと。今現在は各小学校にバスで迎えに行っておるといふふうに伺っておりますので、そこら辺の利便性が上がるのかなと思っております。

その下のデメリットです。これについては、施設集約完了まで全体整備費が割高と、最終的には、こちらの方がやはり高くなってくるといふことは避けられないのかなと思っております。

これで説明の方は以上になりますが、今回も資料の作り方といたしまして明らかにこちらがもうこちらでいきましょうというふうな提案ではなくて、メリット、デメリットの紹介をさせていただくような形になりましたが、これで検討の方よろしく願います。以上です。

【大江町長】

はい。今事務局から説明がありましたけど、1点ご留意いただきたいのは、5ページを見ていただいたら、中学校押し出し案について、池田小学校を集約する場合で今現在算定させていただいておりますけれども、これは池田小学校の集約が今のところ決まっているわけではございませんし、今後の出生数の見込みにもよりますので、仮に小学校集約ということで、資料の真ん中あたりに小学校の校舎プールで補助金7億2600万円というのがありますけれども、これは池田小学校の統合がされない場合、この補助金はありませんので、経費負担は逆転するということになりますので、その点だけご留意をいただけたらと思います。それでは各委員に順次、ご意見をちょうだいしたいと思います。

真砂委員いかがでしょう。

【真砂委員】

具体的にいろいろと資料を出していただいてありがとうございます。今、町長さんがおっしゃったように5ページのところで、池田小学校が集約っていうことになる、10年ではない、もっと20年以上かかるのかなあというような感じがしています。

それと、小学校新設、中学校のときに老朽化したら補助が出るというふうにお話があったんですけど、ということは、中学校が老朽化するまで使えば、もっと補助が増えるということですよ。もしこの小学校新築した場合であっても、だったらやっぱり中学校が老朽化するぐらいならないと、小中一緒にならないのかなと両方を見るとやはり20年ぐらい以上かからないと小中一緒にならないのかなあ。

そうなる、こここのコストの差が、また変わってくる、もうちょっと少なくなるのかなあ

というふうなのが1つ思います。

2点目に、先ほどのお話もあったように最低限のお金のことで言いますと、最低限の見積もりを中学校を小学校にしたときの改築工事を出しているということですので、これ以上のお金がかかるということですので、さらにそれまでの5億、6億とか、そういうように、押出し案でいうと、5億6000万円以上のお金がかかって、全体的には少し差があるということ、それと20年後ってなるとどうなるか、その建物自体がこの今の状況、人口、子供の数が減ってきたら、建物自体が変わってくるのかなあと思いました。

さらにここのコミュニティになる分、小学校がもし中学校跡地に行ったら、武道場、柔剣道の建物が残るわけですよ。その利用っていうのもなかなか、今は剣道で一般の人が使っているそうなんですけど、それも中学校が向こうにできたら向こうへ行ってもいいわけだから、実際のところ、建物自体もどのように利用するかいうのをちょっと難しいなあと。壊すとなって、またさらに費用がかかるという、お金の面だけで見ると、そういうことがいえるから、統合的に言えば、中学校が先に行く方が、お金は少しあれなんだけど、ここ10年ぐらいの感覚で見ると、中学校押出し案の方がお金がかかるんだなあとというのがあります。

あと、ここにスケジュールが出てないんですけど、小学校のやつ、この中学校のスケジュールも3月末じゃなくて、3月15日ぐらいまでにはもう全部終わってないと、小学校は移動ができないし、その移動も人事の発表前20何日ぐらいまでに全部終わらさないといけない状況になるのかなあと思うので、ここに書いてあるように、過密、現場の先生方が大変過密なんじゃないかなと。過密になって、工事はできてもなかなか対応するのが大変なんじゃないかなと思いました。以上です。

【大江町長】

大石委員、いかがでしょう。

【大石委員】

前回以降、いろいろと悩みまして、私の考えも2転3転したんですけども、結局このメリット、デメリットの中で、統合小学校新築案のメリットの1番目「児童へのより良好な学習環境を提供できる」これがすべての児童にかかるメリットなので、これを一番重要視して、小学校の新築案が私はいいのかなというふうなことを思います。

何を重要視するかとか、それから、これとこれとこれと合わせてとか、いうふうないろいろな考えで、私も一時、小中学校を一緒に新たにというようなことも考えたんですけども、もう本当にどれをとっても難しいような感じで、もう一番単純に小学校の整備事業に関して、小学校のすべての子供にメリットのある、この学習環境がより良好なことが学習環境を提供できるという、これを一番重要視して、小学校の新築案を私は推したいと思えます。

【大江町長】

中川委員、いかがでしょう。

【中川委員】

自分はどちらの案も、やっぱりメリットデメリットあって、本当にいろいろこのパターンは、こうっていうので考えてきたんですけど、前回部活動の問題で、中学校が小高跡地に行って活動がやりやすい、広い敷地でやっていけるなっていうふうに思っておりましたが、生徒数はこれから中学校も減っていくと思います。今、他の中学校とかを見てても、狭いところで全部の部活が工夫してやってるとかそういうのも見てきたんで、今のままだもやっていけるのかなという、部活動の問題に関してはそんな感じがしてきています。

やっぱり、小高跡地の方が、安全面、津波とかここに書いてます液状化とかいろいろあるんですけど、新しく3つの小学校を1つにして、新しい学校を作るっていうので、やっぱりそういう安全面のことが、場所を考えるといいのかなと思ったりもします。

今、その中学校押し出し案の方も、お話聞いて大変だなというふうには思います。もう保護者の目線からしても、小学校が新しくなるっていうことで、新しい校舎で、綺麗なところで、そして、あの場所であれば広い土地で、そういうところに通わせたいなっていうふうにも思いますので、もし新しい校舎、小学校を新設というふうには私は思います。以上です。

【大江町長】

照下委員さんいかがでしょう。

【照下委員】

私も当初はですね、中学校押し出し案がいいかなと思っていたんですが、そのままではいけなくって、やはり小学生が中学校へ行くと中学サイズを小学サイズに変えなくてはいけない。やはりそのまま使えないっていうことで、それも大変かなと思っています。それならば、中学はそのまま小学校を新築案ですかね。そうなりますと、このメリット等に出てきております、先ほど1番は大石先生が言いましたが、2番の統合による中学校現場の負担が少ない。これは先生にとって助かるのではないかなと思っています。それで、子供たちが、安全に安心して勉強ができる環境をそのようにして、新しい校舎で作って欲しいなと思っています。以上です。

【大江町長】

坂東委員はいかがでしょう。

【坂東教育長】

私も前は、小中学校全体の教育を考えて、意見としたら、小高跡地に中学校という意見でした。今回、教育委員会内で先ほど説明した資料を作る過程で、多少意見が変わってきました。向こうに小学校が行けば、快適な学習環境で新しい校舎の小学校ができるのは当然なんですけど、私の立場から考えると、先ほど部活動とかの話も出ましたけど、小中学校全体を考えれば、中学校が小高跡地というふうな意見だったんですけども、実際それぞれの工事費を積み上げて、その財源等についても検討しております。

財源的に言うとどちらも工事内容が詰まっておりますので、大きな差はないと思っています。ただ、私の思うに小中学校が小高跡地に行くのがすごく先というイメージで実際考えて、最終的に中学校という意見だったんですけども、令和2年以降の小豆島町の出

生する子供の数を見ますと、意外とそんなに先ではないのかなと。10年後ぐらいには、喫緊の課題として、小中学校を一緒にという話も出てくるように考えています。

総合的に考えて教育面でいうと中学校が行けばいいのかなと思っていたんですけども、財政面、あと施設のプールにしても、中学校に小学校が来たらプール、向こうに行けば、また向こうでプールがいる。武道場等についても、財政難の中施設もかなり重複する部分が出てくると。

あと1点、令和9年4月の同時開校ができれば、中学校と思っていたんですけど、工期的には可能なんですけれども、実際今の中学校を子供たちが学校生活を送る中で、やはり1億円を超える改修工事を実施するという事は、中学校の子供たちに与える影響も、その1年間非常に大きいと思いますので、最終的には、小高跡地に小学校ということで、やむを得ないのかなというのが、結論です。以上です。

【大江町長】

今、ご意見をお聞きしましたところ、皆さんほぼほぼ、子供の教育環境だとか、現場の負担の面、あるいはスケジュール的に引っ越しも難しいんじゃないかとか、安心安全な新しい校舎で新しい学校というようなご意見だったかと思います。

私もですね、実はこれまでは中学校押し案を支持する立場でお話をしておりましてけれども、昨今の児童数の減少を考えると、もう意外とこう、早いということを痛感しております。そういった中で、一刻も早く統合を実現したいということを考えますと、小学校を先に小高跡地でということを考えております。

皆さん方のご意見も基本的には、小学校を新築するというようなご意見だったかと思います。真砂委員もそれでよろしかったですね。

ということで、皆さん意見が一致されてるということでございますので、今回この総合教育会議の結論としては、小学校をまず小高跡地に新築して、その後児童数の減少を見ながら、中学校の整備を検討していくというようなことでいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは本日の結論として、小学校を小高跡地で統合小学校を新築するという事で決定させていただきたいと思っております。

長い間いろいろ多方面にわたってご協議をいただきましたけど、本日、一旦の結論が出ましたので、今後、作業をスピードアップして進めたいと思っております。

また折に触れてですね、状況の変化等ありましたら、総合教育会議を開いて、ご報告しながら、意見もちょうだいしながら、また現場の声も聞きながら、進めて参りたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

では、今日の総合教育会議はこれで閉じさせていただきます。

本日はありがとうございました。